

芝草・土壌通信

今年の夏は例年にも増して暑い夏となりました。

本号では夏から秋にかけての芝生のメンテナンスについての考察をお届けします。

【ベント芝の夏バテ防止・回復】

ベント芝に限らず植物は光合成によって炭水化物を生産しエネルギー源として蓄えます。ベント芝は気温が20℃前後の時に光合成速度が最大となりますが、気温が更に上昇するに従って光合成効率が下がってゆき炭水化物の生産量が低下します。一方呼吸などによる貯蔵エネルギーの消耗は気温の上昇につれて増大していくため、気温が30度にもなると炭水化物の収支はマイナスとなり貯蔵炭水化物は減少していきます。

貯蔵エネルギーを消耗する要因の一つとして、窒素同化作用が挙げられます。もちろん植物の生育に必要な不可欠な作用ではあるのですが、夏場は硝酸化成菌が増殖することと蒸散が活発になることにより、過剰な硝酸態窒素を吸収しがちなため、必要以上にエネルギーを消費して夏バテ状態になってしまいます。

土壌の硝酸態窒素を減らせばこの無駄なエネルギーの消耗は抑えられますので、**硝酸化成抑制剤（ST剤）**入りの「ベル」や「ニューST」、「ニューEX」などの資材をお使いください。

また、植物が窒素を過剰に摂取すると茎葉が軟弱化してしまうことはよく知られています。逆に窒素が不足ぎみだと緑色は薄くなりますが徒長せず細胞組織が強健になります。真夏のベント芝は窒素を少なめに管理することが肝要であり、そのためにも硝酸化成抑制剤は有効です。

夏場に消耗した貯蔵エネルギーの回復を促進するために、関東地方以南では「ベル」や「ニューEX」は9月まで、「ニューST」は10月～11月にご使用されることをお勧めします。芝草は土壌に保持されたアンモニア態窒素を生育に必要な分だけ吸収する特性があるので、芝の生育期に硝酸化成抑制剤を使用することは問題ありません。

ST剤は徒長を抑えますので、夏のグリーンに成長抑制ホルモン剤を使用した際のリバウンド対策にも役立ちます。

【FW・ラフの土壌管理】

夏場はやむなく苧草をラフやFWに放置することもあるかもしれませんが、言うまでもなく土壌にはよくありません。長年繰り返しているとマット化や排水不良を起こし、病虫害の温床となります。

FW・ラフの土壌を改善するために「**芝生のバイオ目土**」を散布して堆積したサッチを分解してください。完熟堆肥をベースとしているため、強力なサッチ分解効果があります。

肥料成分も加えてありますから肥料散布の手間・コストも省けます。ペレット状なので、そのまま散布できます。秋は9月～11月頃にお使い下さい。

鹿沼化成工業株式会社

URL: www.kanumakk.co.jp

電話でのお問い合わせは

028-625-1250

までよろしく申し上げます

【グリーンの土壌改良】

サンドグリーンであっても造成から10年、20年と経てくると排水性は悪化してきます。ベント芝の根は年に2回生え変わるため大量の枯れ根が土壌中に堆積します。古いグリーンの土壌表層に堆積している未分解有機物は平米あたり5Lとも7Lとも言われています。排水性の悪化だけでなく、ドライスポットにも悩まされている方も多いと思います。

この秋の更新作業では弊社の完熟堆肥である「**鹿沼グリーンSB**」や「**SBドレッサー**」お使いください。安定した微生物相や腐植の効果でグリーンの土壌を改善し、土壌にまつわる様々な問題を解決します。